



R I. 第2620地区 静岡第2分区  
三島西ロータリークラブ

# 週報

第1994号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F  
TEL(055)976-6351 FAX976-6352  
例会場 静岡県三島市梅名393-1 ブケ東海三島  
TEL(055)984-0120  
会長 諏訪部照久 幹事 千葉 慎二



広重版画より 三島 朝霧

## 第2057回例会

2015.1.22雨

**司 会** 栗原達治君

**ロータリーソング** 「日も風も星も」  
指揮 登崎久夫君

**会長挨拶** 副会長 鈴木郁夫君

この間の18日の日曜日、沼津で行われた地区補助金管理セミナーに、石井彰次年度ロータリー財団委員長とともに出席してまいりました。このセミナーには補助金事業実施時の会長と財団委員長が出席することになっており、セミナーに出席することが地区補助金受給のための条件となっています。また地区補助金受給することになった場合はクラブから補助金と同額以上の出資金が必要となります。ですから新しい事業を行えば同額以上の出資金が必要となります。逆に中学生交換研修制度や見晴フェスタなど西クラブで行っている、既存の国際奉仕、社会奉仕事業で受給可能ならば、これは経費の節約になります。補助金の上限の額はクラブの会員数により決まり当クラブは20万か30万になるかと思えます。いままでは既存の継続事業は受給対象とならないということを知っていましたが、他のクラブでは既存の継続事業で受給しているケースがあるようです。また受給要件がかなり緩和されているということも聞いておりましたので、そこで初心に帰り西クラブで行っている既存の継続事業が受給が可能かどうか再確認するという気持ちでセミナーに臨みました。特に金額の多い中学生交換研修制度が可能かどうか、特に再確認したかったわけです。ただこの制度では、中学生を送り出す場合と受け入れる場合では経費の支出の内容にかなり違いがあります。次年度は受け入れる側となるので、その内容を想定して確認したところ、中学生交換研修制度は一部が受給の対象となることが判りました。例えばウエルカムパ-

ティの費用、移動の際のバス代、などが受給の対象となるそうです。ただロータリアン、ロータリアンの親族、ロータリアンが関係するところの従業員は受給の資格がないそうです。次年度、中学生交換研修制度の一部が受給対象になるということを確認しましたので、これから4月末の地区補助金申請の締め切りに向けて計画を進めていきたいと思っています。

### 出席報告

	出席総数	出席率	メークアップ	修出席率
前々回	38/46	82.61%	43/46	93.48%
今回	40/45	88.89%	会員総数	48名

欠席者 石井(彰)君、川名君、窪田君、鈴木(正)君、藤江君

### 幹事報告

幹事 千葉慎二君

- ①今日は室伏さんの卓話。
- ②2月14日(土)御殿場高原ホテルにてIM。担当は裾野RC。13:00開会、17:00閉会。バスを仕立てます。11:30頃出発予定。出欠の用紙をテーブルに回します。
- ③1月17日(土)に会長幹事会が開催され、第2分区の次期ガバナー補佐予定者が紹介されました。せせらぎ三島RCの山本良一さん、事務局予定者は土屋巧さんです。

2014~2015年度  
国際ロータリー会長  
ゲイリーC.K.ホアン

ロータリーに輝きを

## おめでとう

会員誕生日	森崎君、関本(文)君、伊丹君
入会記念日	勝間田君
奥様誕生日	矢岸君、登崎君、椛山君
結婚記念日	森崎君

## スマイルボックス

- ◆森崎君・椛山君・古川君、昨日、某S銀行の新年会でのビンゴゲームは西ロータリーのメンバーが大当たりでした。1等古川、2等森崎、4等椛山でした。今年の運を使ってしまったようで少し心配…。坂本さんありがとうございます。
- ◆伊丹君、風邪をひきました。風邪は大丈夫と自信を持っていましたが完全に負けました。今日は森元総理大臣、橋本議員、川勝県知事が当店で三島のうなぎを召し上がっています。

## 卓話

### 小出正吾短編朗読会

室伏勝宏君

久し振りの卓話担当にもかかわらず今日はメンバーに手伝って頂き、小出正吾短編朗読会をやらせて頂きます。

朗読を依頼させて頂いたメンバーは、夏は水が道に溢れんばかりあった三島の湧水で泳いだ経験のある4名の方です。三田さん、千葉さん、平出さん、古川さんです。尚、時間通りに進行できれば、小出先生と直接お話し頂いた小野金彌さんに一言思い出話をして頂けたらと思います。宜しくお願いします。

小出正吾(明治30年1月5日～)

児童文学者、翻訳家。静岡県三島市の商家の長男として生まれた。大正7年早稲田大学商学部を卒業し、しばらく貿易の仕事に従事していた。元明治学院高等学部社会事業科教授。日本児童文学者協会会長、日本児童文芸家協会顧問、アジア・アフリカ作家日本委員会会員を歴任。1939年、童話「たあ坊」で童話作家協会第2回童話賞を受けた。作品集に「小出正吾児童文学全集」「ジントの音」(第13回野間児童文芸賞受賞)などがある。1990年没。

## ROTARY NEWS

### 追加資金3,480万ドルをポリオ撲滅活動に

このたびロータリーは、ポリオ撲滅活動に3,480万ドルの追加資金を投入します。この資金は、WHO(世界保健機関)とユニセフによって使用され、野生ポリオウイルスが常在する3カ国(アフガニスタン、ナイジェリア、パキスタン)を含む10カ国での予防接種活動とウイルス監視活動、またアフリカ諸国での技術サポートに活用されます。

資金の一部(810万ドル)は、ナイジェリアでポリオ感染を封じ込めるための活動に充てられます。同国では、2013年から2014年にかけて感染数が約90%減少し、過去6カ月間、感染の報告が出ていません。しかし、「撲滅活動の前進には不安要素もあるため、さらに力を注いでいく必要がある」と、ナイジェリア・ロータリー・ポリオプラス委員長のスンジ・ファンシヨ氏は話します。ナイジェリアでは政府からの支援が撲滅活動の大きな推進力となっており、来月の国政選挙にかけて、さらに政治家への支援要請を強めていく必要があります。

ロータリーが主要パートナーとなっているポリオ撲滅推進活動(GPEI)を通じた精力的な活動により、2014年、世界の各地域で大きな進展が確認されました。2013年に世界で報告されたポリオ感染数の大半が、政情不安や紛争が起きているシリア、イラク、ソマリアを中心とした、すでにポリオフリーとなっている国々で発生しました。その後、11カ国で5,600万人以上の子どもを対象とした緊急の予防接種活動が実施され、現在までに事態は収束しつつあります。

ロータリーの国際ポリオプラス委員長であるマイク・マクガバン氏は、2014年における進展を励みにしつつも、ポリオが完全に撲滅されるまでは、常に子どもたちへの感染リスクが残ると注意を促します。

現にパキスタンでは昨年、過去10年以上において最悪となる300件以上のポリオ感染が報告され、事態は深刻化の一途をたどっています。この感染数は、昨年の世界全体における感染数(356件)のほぼ大半を占めています。このため、今回のロータリーによる追加資金のうち、110万ドルがパキスタンでの撲滅活動に充てられます。

ロータリーは、これまでに合計13億ドルの資金をポリオ撲滅活動に投じてきました。現在、ゲイツ財団とのパートナーシップにより、ロータリーから撲滅活動に寄せられる寄付に対して、2倍の額がゲイツ財団から上乘せされるキャンペーンが実施されています(上乘せの対象となる寄付額は毎年3,500万ドルまで)。今回の追加資金3,480万ドルは、以下の国々での活動支援に充てられます(概数)。

ナイジェリア(810万ドル)、アフガニスタン(670万ドル)、ソマリア(700万ドル)、コンゴ民主共和国(330万ドル)、ニジェール(280万ドル)、チャド(250万ドル)、カメルーン(160万ドル)、エチオピア(110万ドル)、パキスタン(110万ドル)、ケニア(25万ドル)

(週報担当:遠藤真道)